



日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2939 番
(公) 043 (222) 7207 番

98.5.26 No. 4791

沖縄派遣団報告 ②

一歩も引けない ものをもつて



千葉転支部 中村 栄一

動労千葉の派遣団の一員として、「沖縄の未来を開く五・一六集会」、「韓国・沖縄を結ぶ集い」、普天間基地包囲闘争、海上ヘリポート建設に反対する「命を守る会」との交流会と、三日間の沖縄現地闘争に参加して来ました。

どんな困難な状況のなかでも、明るく力強く闘う沖縄の人たちの姿は、われわれにも共通するものです。

とくに三日目は、ヘリポート基地建設



に反対して闘っている「命を守る会」との交流のために、雨のなかをバスで辺野古に向いました。交流会の際、守る会の相談役である西川さんから、「自分は自民党員だったが、この問題だけは引くことができないという思いで闘っている。仕事も妨害され、自民党からは『もうお前は戻れないぞ』と脅かされているが、戻る気はない」との話しを伺い、すごく共鳴し、共感しました。一歩も引けないものをもつて、ハラをすえて頑張っている姿は、動労千葉の闘いと同じです。

また、そういう人たちとともに闘い交流する中で、沖縄の人たちは、本土でもこの闘いが、さらに大きく広がっていくことを強く望んでいるということを実感しました。

そのためには、われわれが本土での闘いを、大きく前進させ広げていかなければならないし、沖縄の反安保の闘いと、



我々の国鉄闘争を軸とした闘いを職場の中、職場外にさらに広げ闘いつづける、その責任は重大です。

われわれも沖縄の仲間のように、明るく力強く闘い、仲間をふやしていかなければならないと強く感じました。

今回の沖縄現地闘争では、元気づけられることばかりでしたが、今度は、われわれが、本土から沖縄を元気づける闘いを進めていきましょう。

瞳のない顔が うめき声をあげ……



家族会会長 佐藤 正子

息子が自衛隊機に乗って戦場へ向っていった。私は、大空に爆音をたてて飛び立つその自衛隊機を見送って、那覇空港

にたっていた。絶望と恐怖で身体が動か

ない。「遅かった。」……こんな夢を見た。

ひめゆり学徒隊の少女たちの叫びが聞こえる。祖国の勝利を信じて身の危険も顧みず、献身的に協力したことが地獄の道だったとは……。佐喜真美術館でみた「沖縄戦の図」の瞳のない顔がうめき声をあげ、首にたてたカミソリを持つ手がスツと動き、私も一緒に首に巻かれた紐を引っ張っていた。

沖縄に行つて、戦争が如何なるものかを、戦争の酷さを改めて知らされました。そして今も沖縄は戦争が続いています。車で走れど走れど続く基地と米軍用地のなんと広いことか。何の為に基地があるのか。人々の住む地がなぜ片隅に追いやられ、広い土地を自由に使えないのか。なぜ新たに海上ヘリポート基地を造ろうとするのか。なぜ今新安保ガイドラインなのか。

「全ての基地を拒否する」「命育む美ら海に海上ヘリ基地はいらない」「人間が人間として真に生きられるウチナシを返して」との沖縄の人々の思いは、全て

【ウラに続く】

普天間基地 即時無条件 撤去



心のそこからの怒りであり、その先頭に立っている女性たちの明るい笑顔とパワーの基にある怒りと強い信念を、沖縄の地を訪れることで実感することが出来ました。戦争につながる全ての悪法を阻止する運動を、人間として、母親の責任

として共につくりあげていかなければならないと思いました。皆が沖縄に行くことが出来たらいいなと思います。今回はありがとうございました。

悪案等も提出されています。断じて許すことは出来ません。今こそ労働者が一致団結して、最先頭で闘い、法案阻止に向けて起ちあがらなければいけないと改めて思いました。また、多大なカンパをいただき、誠にありがとうございました。

強い気概を ひしひしと感じて



津田沼支部 荏司 仁

私は、去年に引き続き沖縄現地闘争に参加しました。今回は組合員7名、家族会から初めての参加で2名、計9名の派遣団で、5月16日～18日の日程でした。去年の闘争を思い返す中、新たな気持ちで、今回の闘いに参加しました。

まず一日目の取り組みとして、沖縄労組交流センター主催の集会に参加しました。反戦地主の知花さんの発言ならびに基地内で働く交流センターの方々の闘いの報告などを聞いて、改めて米軍基地の撤去に向けた強い気概をひしひしと感じました。また、若い仲間たちが多く発言するなど、ひきしまったなかにも、和やかなとても良い集会でした。

夕方は、「韓国・沖縄を結ぶ集い」に参加しました。韓国で不屈に闘っているパク・ウンジュさんをはじめ各諸氏の発言と、後半には歌を交えた集会でした。

二日目は、米軍海兵隊の最前線基地・普天間基地包囲闘争に参加しました。闘争に参加する前に、佐喜真美術館を見学しました。日本の捨て石とされ、犠牲にされた「沖縄戦の凶」の説明を聞いて心が痛む思いでした。この思いを胸に、沖縄県民と本土の闘う仲間たちが心を一つにして、計3回人間の鎖で普天間基地を



包囲し、怒りのシュプレヒコールをあげて闘いぬきました。包囲闘争の高揚を受けて市民集会が開催されましたが、遠くアイヌの人たちも参加していました。

今回の現地闘争を闘って、改めて沖縄県民の基地撤去に向けた思いの強さを感じました。今国会には、新安保ガイドライン関連法案が提出されています。これはまさに戦争法案です。国会の承認も得ずに自衛隊が出兵し、後で報告をすれば、まかり通ってしまうということです。また、労働者の権利をはく奪する労基法改

命とう宝 (생명은 보물이다)
戦争と暴力お 反対する 闘争は勝利します
전쟁과 폭력을 반대하는 투쟁은 승리 합니다
駐韓米軍犯罪根絶運動本部 주한미군범죄근절운동본부

